

第2回新法人準備委員会 議事録

【日時】12月3日（火）18～20時

【場所】名寄市民文化センター

【出席者】

委員	◎委員長 ○副委員長		12/3
1	名寄スポーツ協会評議員	今尚文	○
2	名寄スポーツ協会理事	栗原智博	○
3	風連スポーツ協会理事	山崎真由美	○
4	風連スポーツ協会理事	○筒井正敏	×
5	Nスポーツコミッション副会長	◎遠藤貴広	○
6	Nスポーツコミッション市民健康部会長	小笠原志朗	○
7	名寄市特別参与	阿部雅司	○
8	名寄市総合政策部部長	石橋毅	○
戦略設計アドバイザー			
1	笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所シニア政策ディレ	澁谷茂樹	○
事務局 ◎事務局長			
1	名寄市スポーツ・合宿推進課課長	◎松澤大介	○
2	名寄スポーツ協会事務局長	安澤豊	○
3	名寄スポーツ協会総務課長	名和谷香代	○
4	風連スポーツ協会理事	菊池慎二	○
5	風連スポーツ協会事務局長	明石裕	○
6	Nスポーツコミッション事務局次長	黒井理恵	○
7	名寄市スポーツ・合宿推進課主幹	片井省仁	○
8	名寄市スポーツ・合宿推進課主査	小田美紗子	○

【決定事項】

1, 法人格について

名寄スポーツ協会の一般財団法人の法人格を利用する。ただし、組織体制や人員配置など含めてゼロベースでしっかり話しあい、加盟している競技団体やスポーツ関係者などの声がしっかり吸い上げられる仕組みを取り入れ、また情報伝達ができる仕組みを作ることを必須とする。

以上を決定事項として、団体へ報告する。

2, 業務の担当について

①業務一覧

業務	業務内容	委員	事務局
組織体制	ガバナンス体制（理事会・監査役、内部統制・透明性を高める仕組み）に関すること 事務局・各種会議・会員に関すること ステークホルダー（利害関係者）との連携に関すること	栗原 筒井	明石 松澤
情報発信 ・交流	加盟団体の周知、市民周知、スポーツ団体 WS、3 団体（カテゴリー別）の交流に関すること 広報活動に関すること	山崎	名和谷 黒井
事業計画	初年度事業計画・予算、収益に関すること 新規事業に関すること 新組織 2 年目以降に調整が必要な事業・予算の洗い出し・リスト化	今 遠藤	安澤 小田
財務	財産の取り扱い、資金調達等に関すること 財務計画に関すること	遠藤	事務局
法務	法人登記、各種内規に関すること	石橋	片井 菊池
人事計画	必要な人材の検討・採用、現職員対応に関すること	小笠原	安澤 片井 小田
将来設計	ミッション・ビジョン・バリュー、短・中・長期計画、ロードマップ、中長期計画に関すること	阿部	黒井 松澤

② 業務の進め方

12/17 第 3 回準備委員会までに、各担当委員・事務局は方針案、検討資料を提出すること。資料提出 12/16AM まで

【発言録】

遠藤：早速ですが報告事項に入ってまいります。11月29日のスポーツ団体ワークショップにつきまして、事務局の方から報告をよろしく申し上げます。

松澤：(資料報告／11/29に開催したワークショップの報告。参加者 46名参加 競技等25参加／40団体中 32名、少年団11参加／21団体中 13名、その他 中学部活保護者 1名)

遠藤：この会を仕切ってくださった渋谷さんから一言おねがいします。

渋谷：スポーツに関わられているみなさん、熱心にそれぞれのお考えを場に出していたと思います。夢を語るとしていたものの、現場の課題が話題の中心になった面もあるので、二回目のワークショップはまさに課題をどういうふうクリアしていくか伺っていきます。引き続きよろしくお願ひよします。

遠藤：他に参加されていたみなさんはいかがでしたか。

小笠原：幅広い年齢層の方が参加いただいていたなと思います。スポーツを引っ張ってこられたベテランの先輩方から、子供の少年団がきっかけでかわるようになった保護者など多様な人たちが参加して対話をしているのがとても良かった。一方、多様な人たちが本当にいろんな意見をたくさん出していたので、それをどうまとめて、これからのスポーツ、またスポーツを通じたまちづくりにつなげていくことが大切になるし、そうでなくてはならないと思いました。

山崎：年代層の幅が広く、指導者、コーチ、保護者育成会を支えておられる方などなどたくさんの方の立場の方がいらっしゃったことで意見が多様に出ていたなというふうに思いました。参加された方から広まっているのではないかというところについて、大変期待の持てるワークショップでした。

遠藤：では、協議事項、法人格の選択についてということで、意見集約をお願いしていました。

栗原：前回の会議のあと、名寄スポーツ協会の中の準備委員会で共有しました。結果的には名寄スポーツ協会の法人格を使って来年度に向けてスムーズに移行していこうという話しで一致しました。

山崎：風連スポーツ協会で理事会を開催し、準備委員会の状況を説明しました。ある理事からはなぜ法人にしなければならないのかとの話がありました。準備委員会として基本的なことを確認して、その議論の過程であるべき法人が出てくるのではないのでしょうか。新法人は市内外から注目され、期待されております。先日の多くの人が集まったワークショップを見ているとよくわかります。スポーツを通じて子育てしたい、全道一・日本一になりたい、指導者は子どもたちを成長させたい、アスリートを育てて指導者自身も成長したい、仲間と楽しくスポーツをしたい。さらには市の活性化につなげたい、学校はクラブ活動を地域移行したいなど様々な思いがあり、大変難しい組織になると思います。この組織が寄付された財産を守り、わずかな人数の評議員会・最高決定期間でよいのだろうか？年に一、二回は各グループの代表者が集まり、広く話しあえる組織でなければならないと思います。なぜこの法人格を選んだのか、私たち準備委員は全ての人に説明できなければならないと思います。そういった議論も踏まえつつ、風連は一般社団法人が新しい団体としては望ましいであらうしました。

小笠原：Nスポは既存の法人格をそのまま移行していくことがスムーズで、これからの運営にとってもいいのではないかとなくなりました。ただ風連の話しにもあったとおり、わずかな人数の評議員会で決議されるのはいかがなものかということ、その通りだと思いました。法人格についてはやはり必要で、ただ、しっかりとスポーツ団体や関係者の意見が吸い上がるような仕組みは、組織の構造として必ずなくてはならないなと感じております。

遠藤：名寄スポーツ協会とNスポーツコミッションは既存の財団を利用して進めていくという意見、風連はそもそも法人格という法人にする必要があるのかという部分をここで議論した上で、さらには一般社団法人が望ましいのではないかという意見でした。事務局から補足説明です。（資料説明）

渋谷：なにが一番大きな課題かということ、時間と人的な制約がある中で、どこまでできるのか、という点だと思います。山崎さんの話しにもありましたが、法人格はさておき、多くのスポーツ関係者の意見をちゃんと広く吸い上げるようなカタチをとっていくことが大切だと思います。また、新たな団体は、競技団体統括組織としての機能とそれ以外のスポーツ振興のハードソフトの取り組みとしての機能がそれぞれ入ってくるということですよね。その「競技団体統括組織」としての機能が失われるわけではないということをしっかり加盟競技団体には伝えていく必要があるかなと思います。そこを勘違いしている人もいるかもしれませぬ。

阿部：正直言って、僕はどっちでもいいと思うところがあって、現場の声をしっかり吸い上

げてやっていく方にエネルギー注ぎたいです。ただ、新しい組織は予算規模も大きくなるので、いろいろと面倒なことが起きるのかなとは懸念していますが。

山崎：名寄スポーツ協会は現法人格を使っていくことですが、第一回の準備委員会のときに最後のところで新しいほうがいいかなという話しも出ていたかなと思うのですが、見解が変わった理由を教えてくださいませんか？

今：私どもとしては、前回新しい法人格を作るという話しをしたという認識はありません。既存法人格を選んだ理由はやはり時間的な制約が大きいということです。また名寄スポ協としては雇用の関係もありますし、現在の組織を使っていたきたいということになりました。

ただ決議機関と執行機関、現在は理事会と評議員会ですが、これだけでは十分かという、そうではないという話しがありました。また6月の会議の中でも話題になりました。それを運営上で解決するのか、定款上で定めるのか、そこは議論になってくると思います。議決機関、執行機関は、法人である以上しっかり持たせますが、運営の中で関係者や競技団体の声を吸い上げていくのが大切だと思います。議論が交錯していますが、スポ協の中ではまちづくりという視点、スポーツ振興という視点が違うような発言されている方もいたのですが、私はどちらも同じだと思っています。それらをおさえて運営していくのが大切。評議員、理事会があるから大丈夫ということではなく、運営上でしっかり対応していくのが大切だと思います。

石橋：私の印象としては、法人格のメリットデメリットに大きな差がないということであれば、今さんのおっしゃるとおりボトムアップで意見が通るようなことを技術的に担保していくのが重要だと思います。スポーツ基本法の中ではスポーツの持つ役割はすごく幅広く定義をされていて。まさにまちづくり、地域振興、経済にも及びます。その中でどう名寄の町のなかで展開していく組織を作り上げるかっていうところがとても大事です。競技団体をどうまとめ、狭義としての「スポーツ環境」をどう創るか、それから地域振興をどうするのかを握る大事な組織になってくるので、多角的に取り組める・意見が集約される場、競技団体ではない人たちも入ってくる機会も出てくると思います。いろんな意見が、この中で集約できるような仕組みになってほしいです。

遠藤：そもそも法人にする必要があるのかという意見もありましたが、それはこの文書の中でも触れておられた通り、法人格を持たない任意団体では、お金の額、雇用の安定という視点から難しいと思います。社団か財団かについて話しあっていきたいと思いますがいいでしょうか。

(異議無し)

遠藤：仮に社団にするのであれば、これから限られた時間という制約、そして、最大500万円かかるかも知れない費用面の課題、それを一体どこから捻出するのかという議論も含めて話し合っていきましょう。議論のポイントは合理性の部分、理事と評議員が機能するのか・競技団体の意見が反映され動きやすい団体になっていくのか。そしてまちづくりにも関わっていく部分なので、より幅広い人に入ってもらう必要があるという話しができています。

渋谷：一般的にある組織統合では、元の法人格を使う、既存の団体と新しい団体が一つになるときに、元の団体の定款や決まり事、人事や給与の面も含めて、旧団体に引きずられてしまうというデメリットもあります。それは新しい組織を作っていく上では若干のリスクになるかもしれません。名寄スポ協の法人格を活かしていくなら、新しい組織として必要な定款のカタチを定めていくのが大切だと思います。組織間のパワーバランスで、あるべき組織ができずに「これなら法人格をゼロから創りなおすべきだったね」とならないように、ルールや決まり事をゼロベースで考えていくことが大事だと思います。

山崎：その通りです。R7に統合ですが、4月1日とはっきりしているわけではない。加藤市長も日にちを行政報告で口にしてはいるわけではなく、それはみんなで新しい組織を作っていくということを大事にすべきだということだと思います。そういう感覚の中で大事にすべきところはしっかり議論をし、かけなければいけない金額、時間はかけていく。そうやって土台を固めた上で、将来安定した名寄市全体のスポーツ団体統合を目指したいというみんなの思いがあると思っています。

確かに、名寄地区の指定管理を名寄スポ協がやり、問題なく進んでいる中で、変更となると多くの手続きや時間を要する大変さではありますが、必要な時間としてやっていくことだと思います。そういった点も踏まえ、風連は一般社団法人でそこに集まる人に法人格を持たせ、人がしっかり社員総会の中で議論しあうことが大切だと思います。評議員会・理事会で決定していくことが効率的だということもあるのですが、それでは競技団体のいろいろな方に情報が伝わっていかないということもありえます。そういう点で、一般社団法人の方がいいのではないかという判断をしました。

小笠原：山崎さんの話しでは、社員総会なのか評議員会なのかが一番のミソになっているかと思いますが、どちらにしろスポーツ競技団体や関係団体・関係者の話を吸い上げなければいけないという点ではその構造に変わりはありません。社員総会で決まったら決まりですが、そこにスポーツ団体の意見を積み上げる仕組みがなかったら、評議員で決めますよという話しでもまったく同じです。

そういう意味で社員総会か評議員会か、どちらが最終決議機関なのかという点はあまり差はないと思います。いずれにしろ、競技団体とかの意見を吸い上げる構造をどう作るかが大切だと思います。

そしてR7年4月スタートが決定ではないといいつつ、市民の感情としては、ずっとこの話しをやっているんだから、もうそろそろ始めろよ、というところがあると思いますし、そういう声もよく聞きます。スムーズに進めながら組織をしっかり作っていくには、既存の法人格を使って新しい組織にして、この準備委員会では、いろんな人たちの意見がきちんと吸い上げられる構造を作っていくというところに力を注いだほうがいいと思います。

山崎：名寄スポ協の法人格を使うとなったら、いままでの財産を使うことになると思うのですが、そこは理事や評議員の了解は得られているのでしょうか。

栗原：今の段階でははっきりといえませんが、ここに至る前の理事会・評議員会の中では確認取れていると思います。先日、11月21日に名寄スポ協内の準備会をりましたが、既存の理事会・評議員会があるのでそちらにこまめに情報を出しながら了解を持っていくことになります。心配は理事・評議員の転換・変更でしたが、そこは説明をしながら了解をもらいながら進めて行くということでもまっています。

山崎：理事会、評議員会で話し合われたことは、各競技団体にどのような形で周知されているのでしょうか？ホームページなどではなく対面で意見交換できる形で報告していくということでしたが、それは事後でいいのでしょうか。新しく生まれ変わる組織、最近は部活動地域移行も目前に迫っていますが、そういう状況の中で、今の動きが伝わってこないという声があります。そんな中で今日、法人格を決めるというのは、あくまで事務方の計画であって、市民の関心を持っている人たちに、11月29日にワークショップはありましたけれども、本当に浸透しきれているのか、それが報告ということだけでいいのかどうかということについては、名寄スポ協の皆さんの状況を確認させていただきたいなと思います。

今：これまでの経過を振り返ったときに、確かに心配事の一つだと思っています。ですが、その反省の上でこれからどうするかということでしょう。新しい法人は時間的経済的視点からも、既存の法人格でいくということを試してみたい。ただ、だからといって手抜きがあってはだめで、競技団体、関係者、市民のみなさんにいかにわかってもらうのが大切で、理事会に報告して終わりではなく、しっかり話していかなくてはならないです。これは、これからの努力です。しっかりとやっていく覚悟ではいます。今までの運営のあり方を大いに反省をしながら、今言ったようなことを含めてやっていきたいと思っています。それでなかったら、新しい組織にはなっていないと思います。決意も含めてお話しさせてもらいました。

遠藤：この準備委員会では決議の方法について特に定めていませんので、議論を尽くしてみんなで方向性を決めるという形がベストだと私は考えております。一方、準備委員会は各団体から決定を付託されている機関です。それをまた各団体に持って帰って意見をもらってと往復するのではなく、ここでしっかり結論を出して責任をもってやっていくということで進めていきたいです。

皆さんからご意見いただいたんですけども、私も委員長として発言させてください。今さんのいまの発言がすごくしっくりきました。過去には内部だけで先行して進めてきてるように見えた部分もあったかもしれませんが、それを反省して正していく。それを踏まえて、まずはメリットを最大限にして、法人格は既存の名寄スポ協を使う方向が準備委員会の決定としたいと思いますがいかがでしょうか。そこから名寄スポ協の評議員会などに通るかどうかという部分は不確定だったとしても、まずはこの決定で投げかけてみたいと思います。もし、それでダメだという結論が出たら社団の立ち上げを模索するのが、時間、お金、人材の制約からいっても妥当だと思います。

本当に山崎委員から素晴らしい申し添え事項、懸念事項をいただきました。新しく生まれ変わる時に既存のものを利用するのではなく、本当に新しいものとしてやっていくことが大事で、それについては時間をかけて議論して丁寧にやっていくべきだという話は私もその通りだと思います。この議論経過が大切で、全員一致というカタチは難しいかもしれませんが、その山崎委員の懸念事項も踏まえた上で、新しい組織を現在の名寄スポ協の法人格を使っていくということで準備委員会の結論として進めて、各団体に下ろしていくというカタチにしたいのですが、いかがでしょうか。

山崎：改めて、一般財団法人にすることの今後のメリットって何でしょうか？

松澤：メリット、デメリットは既に提出しているとおりののですが、やはり中身が大事だと思っています。どんな法人格だったとしても、市民や加盟団体にここにあってよかったと思われるような組織を委員会の中で作り上げていくというのが大事だと思います。メリットデメリットで決めるというより、私たちがしっかりいい組織を作っていくことだと思います。

小笠原：メリットデメリットは事務局からの追加情報にも「運営上のメリット、デメリットにあまり差はない」とあります。いま、松澤さんから説明もらったとおり、どういったものを作るかが大事になるでしょう。運営上のメリット、デメリットがないのであれば、移行するメリットがどっちにあるのかを考えて、やはり既存の法人を利用するのが時間的にも費用面にもメリットはかなり大きいと思います。ですので、僕は既存の法人で行くのがいいと思います。

遠藤：その他いかがでしょうか。それでは多くの議論をいただきましたけども。この準備委員会の協議の結果は既存のスポーツ協会の法人格、財団法人でいきたいと思います。山崎委員、本来であれば、全員納得の上でというところですが。いかがでしょうか。

山崎：風連スポーツクラブも一般社団法人でやっておりまして、そのメリットも感じてやっているということ。財団法人は二期連続 300 万円の資産がなくなれば法人としては立ち行かなくなるというリスクもあります。やっぱり私は人が基本だと思っていますのでその観点からも、お金、手続き、時間とか以上に社団法人の方にメリットを感じています。いま、遠藤委員長が言った、まずはここでの決定を名寄スポ協にいけるかどうかを確認するというステップは委員長の配慮だと思っています。いずれにしろ、筒井さんも含めて私たちは一般社団がいいと思っているということを改めて申し上げておきます。

遠藤：名寄スポ協さん、いかがでしょうか？

栗原：私たちとしてはぜひ使っていただきたいとおもっています。

石橋：本当にいい議論がされています。山崎さんにおいては、団体の代表として意見を持ってきてくれているということで、これは本当に尊重しなければいけないと思います。今後も、各団体から持ち寄った意見と、ここでの結論が変わってくることも起きてくると思います。そのときに各団体に持ち帰って説明しなきゃならないというケースも出てくると思いますし、それは責任のある仕事です。しかしその中でもここで互いに、どこで着地していくのかという着地点を見出すのが大切だと思います。小笠原さんが整理してくれたように、法人としてのメリットデメリットにそんなに差がないという点を共通認識として理解をしながら進めていかなきゃならないし、今回はどの法人を使うにしても一番大切なのは意思決定のスキーム、競技団体の意見が吸い上げられるかどうかというところの担保でした。あとは、意思決定までのスピード感も大事にしている組織を作らなきゃいけないなというふうに思っていますので、今回のように、意見をしっかり出し合って決めて行くという雰囲気がこの準備委員会の中でできているのがとてもいいと思います。引き続き、どうぞよろしくをお願いします。

遠藤：それでは議論を尽くされたということで、名寄スポ協の法人格を利用させてもらうということで結論づけます。皆様ありがとうございました。

それでは、今後の業務及び役割分担についてということで、事務局から説明をよろしく願いします。

松澤：(資料説明)

遠藤：各委員に業務が振り分けられ、それぞれ事務局がついて、次回の打ち合わせに向けて各自資料作りなどをしていくということですね。そして集まる機会が必要だということですね。皆様からなにかありますか？

山崎：次回が欠席予定で、私の担当の情報発信・コミュニケーションの担当が一人しかいないと報告ができないなと思っています。事務局担当からということであれば、それでもいいのですが、1人2役というカタチはいかがでしょうか？

松澤：事務局としては作業効率とスピードを大切にしています。一方で、事業計画策定などの重たい部分については委員を2人、複数団体から入ったほうがいい業務のところはバランスをとって、なども配慮して案をつくりました。1人につき2つ以上入るとかなり委員のみなさんの負担が大きくなると思います。

基本的には各担当から出してもらったものをこの準備委員会に挙げて全体で議論することなので、まずは1人をお願いできればと思っています。

山崎：わかりました。

遠藤：では、今日は以上でおわりなので、終了後に、各担当で集まって話し合ってくださいというカタチでいいでしょうか？では、最後にアドバイザーから言葉をいただきます。

渋谷：非常に活発な議論ができていますし、このまま行けばいい組織統合になると思います。

阿部：次回はリアルに参加できると思いますので、よろしくお願いいたします。

以上